



CONTENTS

- P2 ごあいさつ・2021年ハイライト
- P3 ORGAN事業構成マップ
- P4-7 [特集]長良川流域文化
レッドデータブック制作
- P8 ORGANロジックモデル
- P9 観光マーケティング主体形成
- P10 既存観光拠点再生・高付加価値化推進事業
- P11 長良川デパートリニューアル
- P12 2021年度活動計算書
- P13 数字で見るORGAN
- P14 2022年度事業方針
- P15 ORGANの活動に参加するには

団体名 NPO法人 ORGAN
 所在地 岐阜市湊町45
 設立 平成23年2月17日
 理事長 蒲 勇介
 事業内容 まいまい東海事務局、長良川デパート・和傘CASAにおける小売事業、ORGANキモノレンタルサービス、オンパク手法による地域支援事業、長良川流域観光推進協議会各種業務、その他観光まちづくり支援事業
 取引先 岐阜県、岐阜市、桑名市、(株)JTB中部、(株)JTB、名鉄観光サービス㈱、近畿日本ツーリスト㈱
 TEL 058-269-3858
 FAX 058-269-3857



ANNUAL REPORT

2021 NPO法人ORGAN 年次報告書



ごあいさつ

新体制で、新事業に挑む 自主事業の基盤をつくる一年

長良川流域の命のつながりを取り戻し、お互いさま、おかげさまが当たり前のなげに楽しい地域を作る

これはORGANの掲げるミッションですが、2021年はこの想いを強くする一年でもありました。今回特集として取り上げている「長良川流域文化レッドデータブック」制作では、ヒアリングや調査の過程で、長良川流域文化の置かれている現状を知りました。一度途切れると取り戻すことが難しくなる文化の継承。ガバメントクラウドファンディングのご支援を受け発行した本誌は、ぜひ多くのおみなさまに手に取っていただきたいと思っています。

ORGAN内の組織としては、これまで理事であった熊田が常勤スタッフに加入し、事務局長に就任。事業内容の面ではまち歩きツアーを中心としたまいまい東海事業の始動や

長良川デパートのリニューアルといった変化もありました。事業内容の拡張に伴い新スタッフも加わり、新体制での元年とも言える一年でした。

DMOとしての活動も本格化し、「長良川温泉マーケティング委員会」が発足。各事業者の合意形成や長良川温泉エリアのブランディングなどにも参画してきました。観光庁の既存観光拠点の再生・高付加価値化推進事業にも採択され、長良川デパートの改修工事は本事業の補助金を活用した事業でもありました。ほか、岐阜麦酒醸造を伊奈波通りに誘致し、醸造所及びタップルームの開業支援も実施。エリア全体としての魅力向上でも成果を挙げています。

長良川流域文化継承に向け、これからも宜しくお願いいたします。

NPO法人 ORGAN 理事長 蒲勇介

2021年度ハイライト

1 長良川デパートのリニューアル



2 岐阜市に「岐阜麦酒醸造」が誕生



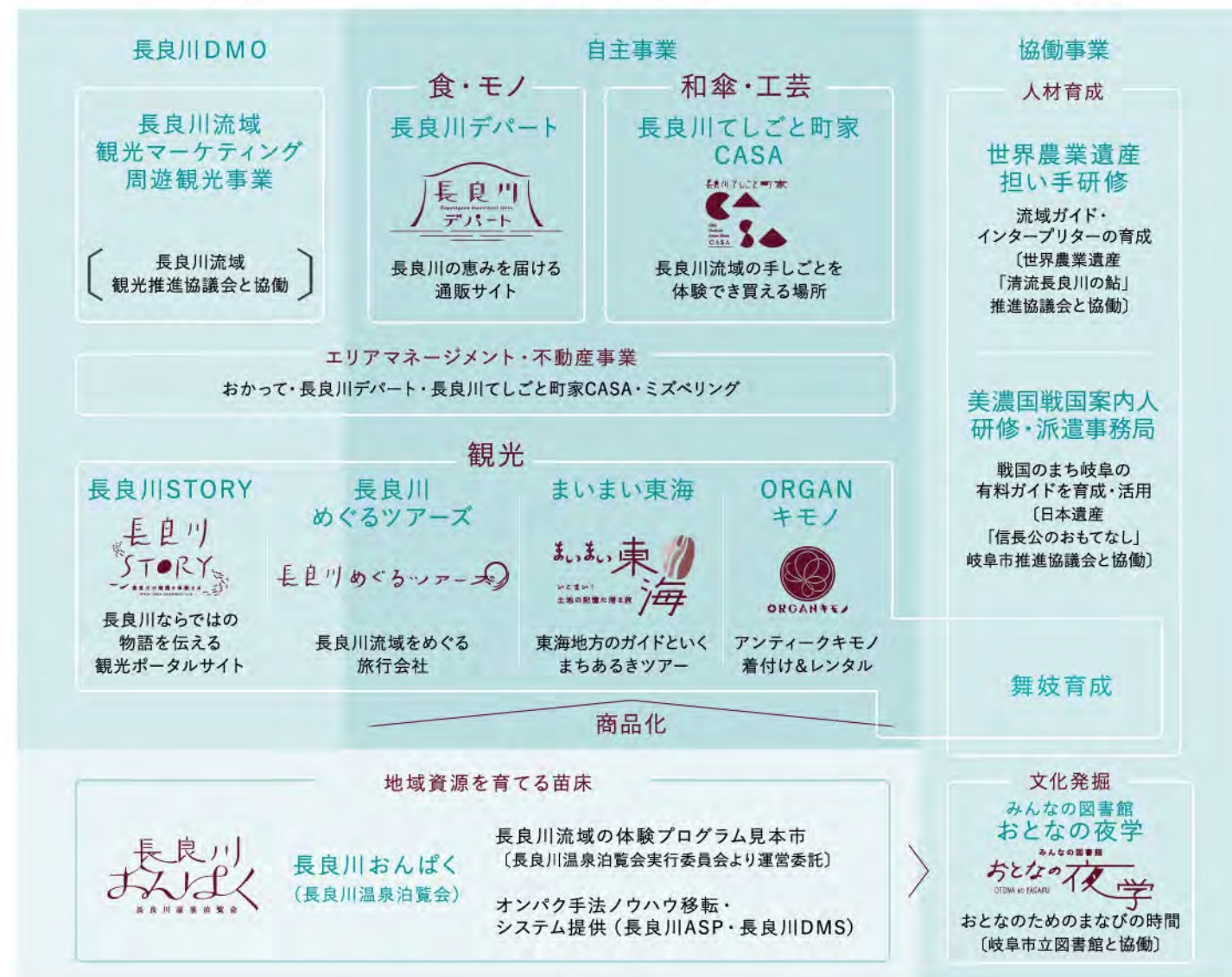
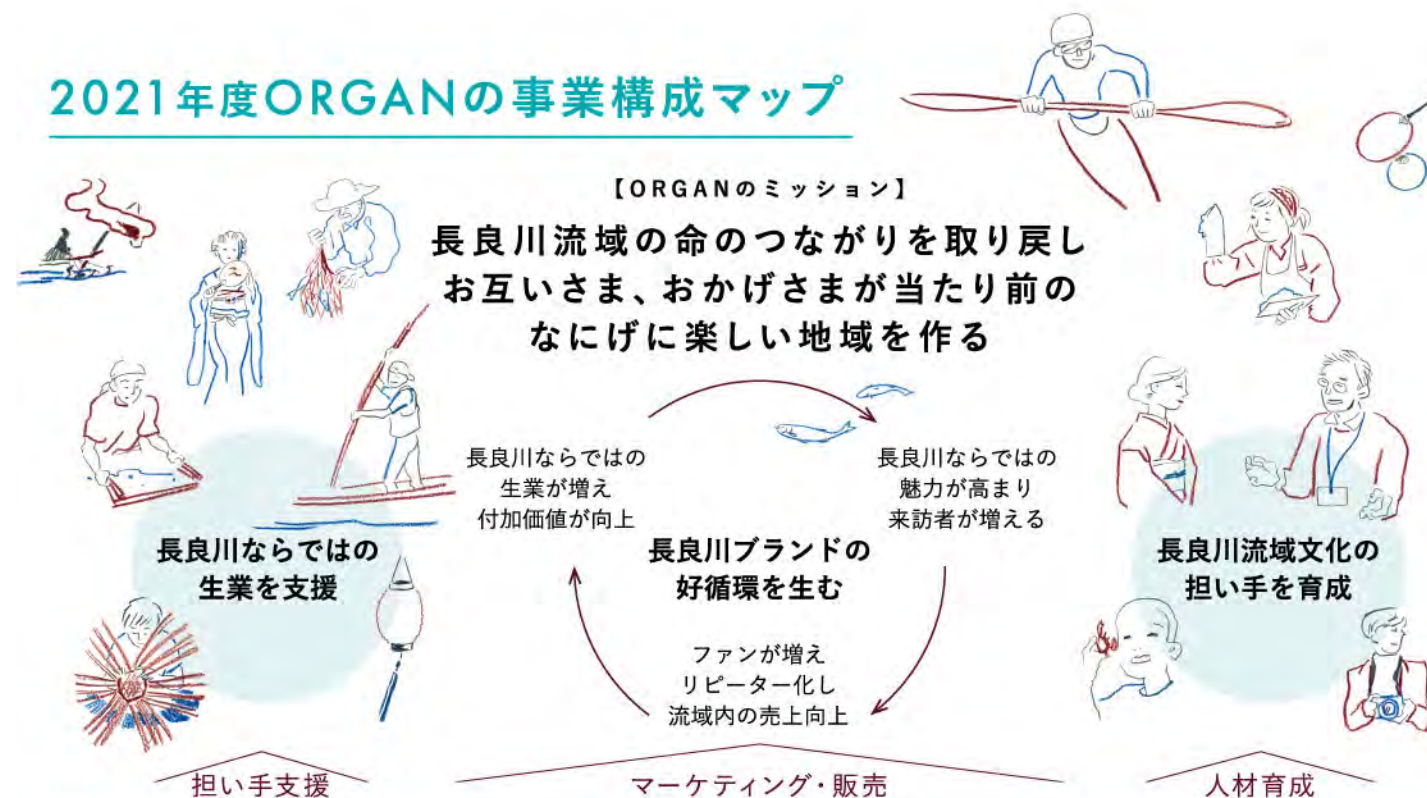
3 まいまい東海スタート



4 「岐阜和傘」が伝統的工芸品に指定



2021年度ORGANの事業構成マップ



発掘
長良川流域の自然・暮らし・生業

長良川流域文化の今をデータやヒアリングから改めて現状を知り、未来につなげたい。

長良川流域文化 レッドデータブック制作

私たちはこれまでも現在も、長良川流域文化を未来につなげるために活動しています。岐阜和傘の担い手減少や業界再生に向けた取り組みは年次報告書2019でもお伝えしました。では、ほかの業界はどうなのだろうか。

今回着目したのは、漁業・工芸・芸能の3つの分野です。各業界の皆様にお話を聞かせて頂き、数値データを収集し、長良川流域文化の「今」を一冊にまとめました。

長良川デパートや和傘CASAの店舗や長良川おんぱく・まいまい東海を運営していく中で、繋がりのあった担い手

の方々ですが、業界の状況という切り口で、じっくりお話を聞く機会は大変貴重な時間となりました。

「長良川流域文化レッドデータブック」調査・編集制作事業は令和2年度岐阜市NPO法人等応援交付金事業として認定され、ガバメントクラウドファンディングのご支援によって制作することができました。また、プロボノ募集を行い、制作に加わっていただいたことも初めての試みでした。

長良川流域文化レッドデータブックは、子どもたちの学びや企業研修などでも活用していただくことを想定しています。



冊子をご希望の方は
ORGANまでメールにてご連絡ください

お申込み先 info@onpaku.asia
件名を「長良川流域文化レッドデータブック希望」としてください。

本文に下記の内容を明記してください。

- ・お名前・ご住所・電話番号・必要数
- ・ご用途(例: 自社の新入社員研修で使用など)

※数量については数に限りがありますので、ご希望に沿えない場合もございます。

※1週間以上折り返しの連絡が無い場合は、お手数ですが平日9時~18時の間にお電話いただけますと幸いです。TEL 058-269-3858

※送料がかかる場合は着払いにさせていただきます。あらかじめご了承ください。

※ご連絡頂いた時点で配布が終了していることもございます。ご希望の方はお早めにご連絡ください。



ORGANホームページでも全ページのPDFデータがご覧いただけます。
<https://organ.jp/>

プロボノメンバーと編集・制作

編集・制作ではプロボノ募集を行い6名の方にご参加いただきました。長良川流域文化の研修を修了した長良川システムサポーターの方が多く、ご自身の経験も活かしながらヒアリング、データの収集、ライティングなどでご活躍いただきました。



工芸

長良川流域独自のプロダクトである岐阜提灯・岐阜和傘・美濃和紙に焦点をあてています。どの業界でも共通しているのは、原材料や道具を業界で守っていく動きが、地域を越えて、全国規模で始まっていることです。



漁業

川漁師・遊漁者・鵜飼・川舟の4分野を取り上げました。直接川と接している方々は、日々その変化を感じ取られています。長良川の幸を食べられるのは漁業あつてのことですが、後継者不足が大きな課題です。



芸能

祭りなど人々の暮らしの中にも芸能文化はありますが、今回はなりわいとしての芸能に着目しました。中でも長良川と密接に関わる「船遊び」に焦点をあてています。船遊びは工芸・漁業とも深く関わっています。



先行事例・対談

学校を作り技術継承を行う高知県の鍛冶屋創生塾。新たな需要を作り伝統的な舟作りを未来につなぐ沖縄県のサバニ帆漕レース。この2つを先行事例として紹介しています。そして岐阜県立森林文化アカデミーの久津輪雅教授と漁師の平工顕太郎さんの対談では、長良川流域のこれからにつながるお話を聞かせていただくことができました。





漁師育成に関する政策提言(2021年度～)



民間船大工の育成(2021年度～)



小瀬鵜飼幽景(2021年度)



長良川鵜飼棧敷(2019年度)



船遊びの企画販売(2011年度～)



舞妓育成事業(2019年度～)

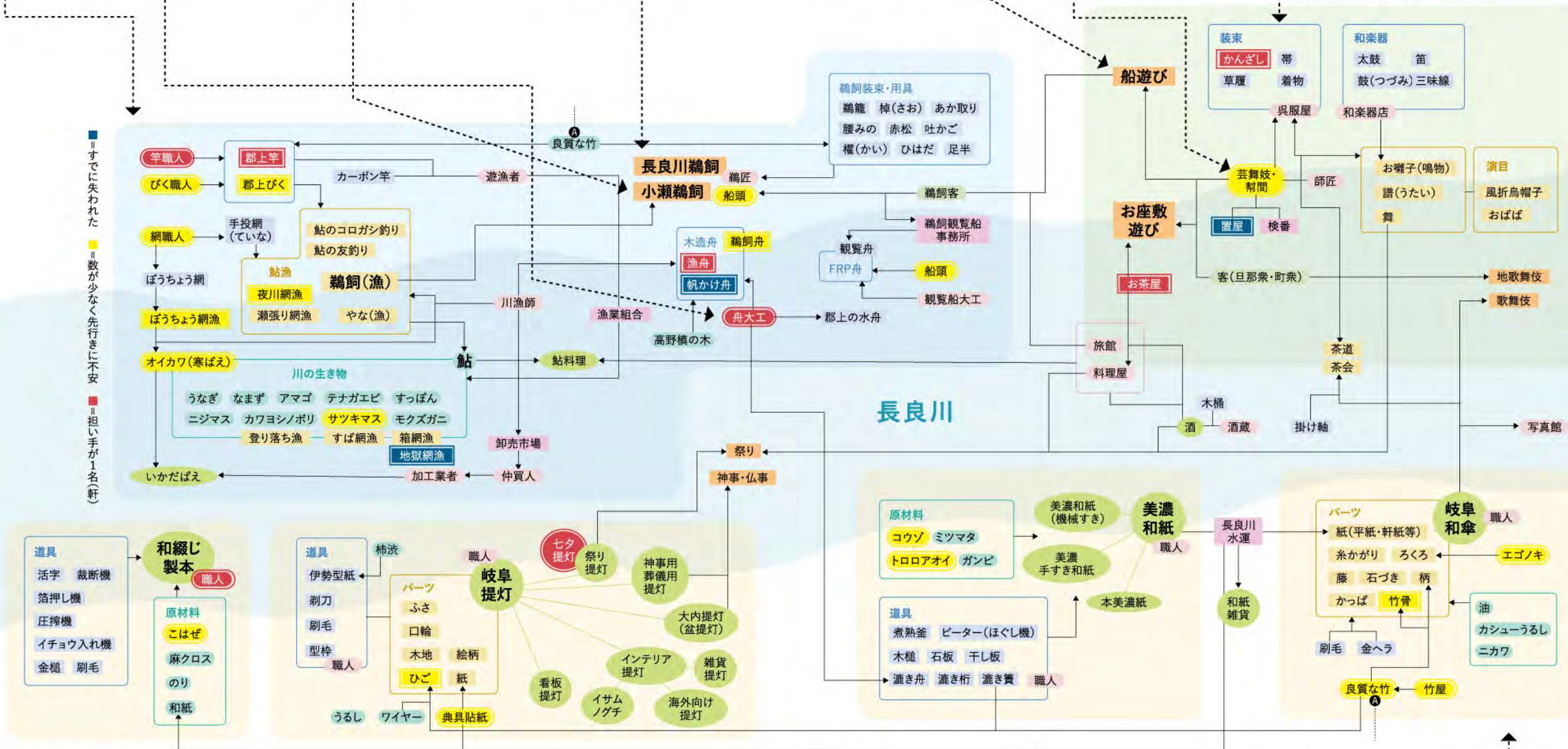


舞妓の衣裳展の企画運営(2020年度)



舞妓衣裳の管理活用(2020年度～)

長良川流域の伝統産業の持続不可能性とNPO法人ORGANの取り組み



長良川システムサポーターの育成(2019年度～)



長良川おんぱく(2011年度～2020年度) / まいまい東海による(2021年度～)体験ツアー事業



岐阜提灯組合あかりのいえの運営(2021年度)



長良川デパートの運営(2016年度～)



ぎふ灯り物語の資金調達と事業支援(2020年度～)



CASAの運営(2018年度～)



岐阜和傘協会の運営支援(2019年度～)



ORGANが2030年までに取り組む 「生業が次世代に受け継がれている長良川流域の実現」 に向けたロジックモデル

ORGANはここ数年、高付加価値な観光商品の造成に力を入れています。長期成果の「生業が次世代に受け継がれている長良川流域の実現」は、長良川流域の真の価値が認知され、全国各地はもとより世界から顧客を得た先にあると考えるからです。

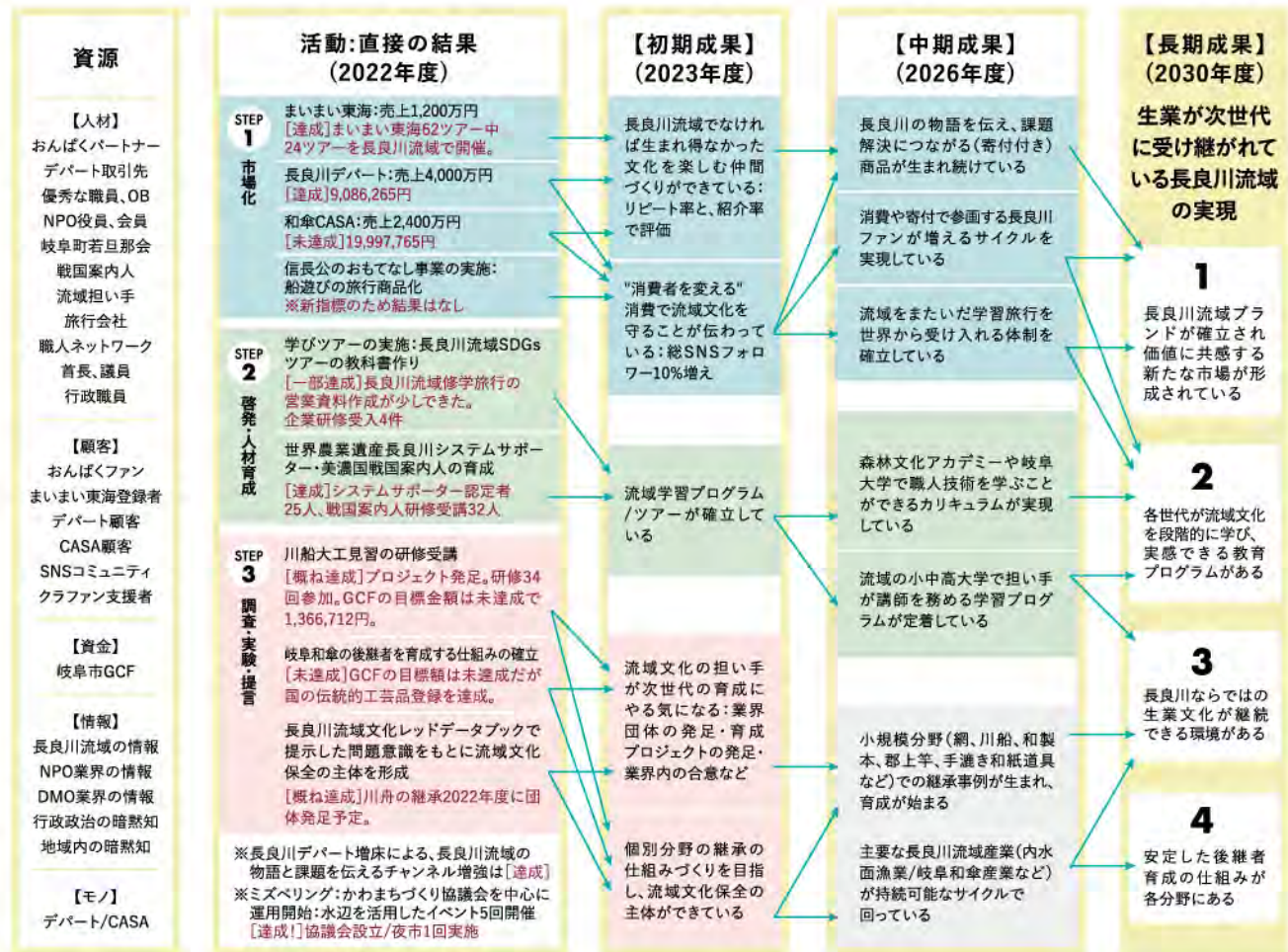
ひとつ例をあげると、長良川での「船遊び」があります。昭和の中ごろまでは鵜飼シーズンになると毎日のように芸舞妓が鵜飼観覧船に乗り、船遊びを楽しむ旦那衆の姿がありました。しかし、今ではそのような光景も少なくなり、鵜飼は知っていても船遊びを知らないという大人も増えてきました。認知度が低くなれば、次世代に継承されず、魅力的な長良川流域ならではの文化が消えてしまうのは時間の問題です。ORGANでは船遊びを観光商品としてブラッシュアップし、販路が確立するように動き始めています。

船遊びについても調査を行った「長良川流域文化レッド

データブック」の制作では、担い手の方々と直接お会いする機会を頂きました。この制作・編集をしていく中で、ORGANが目指す長期成果への思いを強くしたと言っても過言ではありません。

2022年秋にはORGANがツアー造成・運営を行うまいまい東海も1周年を迎えます。まいまい東海においても、土地の記憶、大切な文化をより魅力的に伝え、顧客を獲得することでORGANと同じ思いを持つ仲間を増やしていきたいという思いでツアー造成をしています。また人材育成事業においても同じ志の仲間と学びの機会を持ち、長良川流域文化への理解を深めています。

ロジックモデルを更新する中で、長期成果に近づいていると手ごたえを感じながらも、力が及ばないと感じる場面にも数多く遭遇します。これからも目指す社会の実現に向けて尽力してまいります。



提言 CASE 1 地域観光 マーケティング

日本版DMO法人として取り組むべき「データに基づく地域戦略づくり」が段階的に進みつつあります。今年度から長良川温泉マーケティング委員会の事務局として、流域最大の泊地である長良川温泉6館の宿泊データの収集・分析支援に取り組んでいます。本格調査開始前のビジョンづくりの段階から議論は白熱。これまでにない熱量と緻密さで、地域全体の戦略づくりや意思決定に向けた下地が出来上がりつつあります。

STEP 1

課題の共有

なりゆきの未来ではどうなってしまうのか…。そんな危機感を共有しました。

STEP 2

ビジョン作り

観光地として今後どのようにありたいのか。白熱した議論が交わされました。

STEP 3

宿泊データの共有

施設の垣根を超えて宿泊データを共有。活用のために知恵を絞っています。

STEP 4

アンケート調査の実施

宿泊者のより詳細な行動を把握するための統一フォーマットでのアンケートを通年で実施。定例会で情報を共有しています。

事業責任者の声/今後の方向性

日々コンテンツベースで事業を推進しているORGANにとって、データに基づく議論の説得力や意思決定の速さを見るにつけ、その大切さが骨身に染みます。引き続き十六総研さんや株式会社カンダまちおこしさんとの協業を通して手法を磨きあげ長良川流域全体の観光戦略づくりと事業展開に活かしていきたいと考えています。



その他

1 長良川流域観光推進協議会

令和4年度より流域4市の宿泊施設で統一フォーマットのアンケート調査を実施予定。

2 岐阜市日本遺産観光マーケティング調査

日本遺産「信長公のおもてなし」をフックとした岐阜市の歴史観光推進のためのアンケート調査を令和4年度より実施予定。

市場化 CASE 1

令和2年度第3次補正予算事業 既存観光拠点再生・高付加価値化 推進事業

観光庁から「令和2年度第3次補正予算事業 既存観光拠点の再生・高付加価値化推進事業」の公募が行われ、地域連携DMOとして岐阜・長良川流域の周遊・滞在型観光地域づくり計画を提出し、採択されました。株式会社十六総合研究所様と連携し長良川温泉の宿泊事業者様、長良川河畔の商業施設事業者様、交通事業者様、岐阜市のみなさまとともに、魅力と収益力を高める地域づくりに取り組みました。参加事業者はORGANを含め9事業者。10か所の観光施設を高付加価値化することができました。(ORGANが2施設の改修を実施)

2022年3月にリニューアルオープンした「長良川デパート」も、本事業の一つとして実施し、たくさんのお客様で賑わう店舗へと生まれ変わりました。そちらについては右ページで詳しく紹介していますので、併せてご覧ください。また、伊奈波通りの旧写真店をタップルームを併設したクラフトビール醸造所へと改装した工事や鶺鴒の高級観覧船造船も本事業のひとつです。2月にすべての事業が終了しました。本格的な始動は2022年度からになります。来訪者の動向などに注目し、本事業以降も、長良川温泉エリアの魅力向上への動きは引き続き継続していきます。

岐阜麦酒醸造 Taproom YOROCA

2021年3月に創業の岐阜麦酒醸造(代表平塚悟さん)。創業当初は製造と飲食店への卸、イベント出店での販売をメインとされていましたが、伊奈波通りへの出店を誘致いたしました。

伊奈波神社・岐阜善光寺の参道である伊奈波通り。このエリアは市内でもトップクラスの少子高齢化地域でもあり、不動産主の高齢化・空洞化が進んでいます。そのような状況下で素晴らしい景観を担う大切な建物が壊されてしまう速度が加速。そこで起業したのが「岐阜まち家守」です。本事業は岐阜麦酒醸造・岐阜まち家守・NPO法人ORGANが共同で進めてまいりました。



タップのついた壁面は長良川のイメージ。



Taproomの名称「YOROCA」は、写真店のあとサロン待合所として活用されていた時の名前を引き継ぎました。



壁面の塗装はクラウドファンディングに参加いただいた方をはじめ、有志の皆さんと作業しました。



地元の人から旅行者まで、多様な人々が交流できる場になりました。美味しいビールがあると、自然と会話が生れます。



市場化 CASE 2

長良川デパート リニューアル

2016年にオープンした長良川デパートですが、「デパート」と呼ぶには小さな店舗で長良川流域の魅力を伝えきれないというジレンマを抱えていました。ORGANが長良川流域で出会った魅力あふれるプロダクトを、これまで以上に伝えていく場にしていきたいと計画がスタート。5月ごろから計画、設計がはじまりました。11月に着工し、2月に建物の工事が完了。什器の設置や新商品の仕入れ、新スタッフ研修などを経て、3月にオープンを迎えることができました。



↑ 内装のこだわり

美濃和紙をふんだんに使用。レジ後ろの襖は加納武さんによるベンガラ染めの和紙、棚の引き戸は千田崇統さんの落水紙を貼っています。売り場奥の吹き抜け部分にはイサムノグチのAKARIを象徴的に使用しました。

↑ 売り場面積増床

これまでの約3.5倍の面積に拡大。従来の事務スペースも売り場になりました。



↑ 長良川流域文化を伝えるコンテンツ

入口左側、ももとの壁面にイラストを描き加えました。イラストはもちろん山田真梨子さん。ほかにも、レジカウンター右には大型モニターを設置。動画を放映しています。



← 新商品の増加

石徹白洋品店の商品を販売開始。試着室も設け、ファッションアイテムもお買い求めいただけるようになりました。また、関の包丁の試し握りコーナーの設置にもこだわりました。



← オリジナル商品の発売

リニューアルを機にちょうちんもなかの販売を始めました。オリジナルパッケージをデザインし、長良川デパート定番商品となっています。ほか、オリジナル手ぬぐいも多数展開しています。

事業責任者の声／今後の方向性

長良川デパートをオープンしてから6年、店舗拡大により満を持して幅広い商品を取り扱わせていただけるようになり、思い描いてきた長良川デパートが実現し、心躍る素敵なお店に仕上がりました。リニューアル準備中は、本当に豊かで恵まれた地域と環境であることを改めて

噛みしめる日々でした。携ってくださったみなさまに心より感謝申し上げます。県内外から訪れるお客様には商品を通して岐阜・長良川流域の文化を感じていただけたと思います。また、作り手の方を一番応援する店舗であることを目指しています。



2021年度 活動計算書

令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

科目	金額	(単位:円)
I 経常収益		
1. 受取会費		
正会員受取会費	150,000	
入会金会費	0	150,000
2. 受取寄付金		
受取寄付金	6,599,800	
資産受贈益		
施設等受入評価益		
ボランティア受入評価益	6,599,800	
3. 受取助成金等		
受取助成金		
受取補助金	23,905,264	23,905,264
4. 事業収益		
事業収益	93,198,013	93,198,013
5. その他収益		
受取利息・配当金	27,244	
受取賃借料	5,871,423	
為替差益		
雑収入	4,086,439	9,985,106
経常収益計		133,838,183
II 経常費用		
1. 事業費		
(1) 人件費		
役員報酬		
給料手当	23,559,800	
臨時雇賃金	6,444,329	
ボランティア評価費用		
法定福利費	4,256,957	
退職給付費用		
通勤費		
福利厚生費	1,228	
人件費計	34,262,314	
(2) その他経費		
売上原価	18,445,630	
業務委託費	36,368,693	
諸謝金	1,278,681	
印刷製本費	2,859,843	
会議費	613,087	
旅費交通費	1,913,988	
車両費		
通信運搬費	2,241,923	
消耗品費	4,750,502	
修繕費	706,164	
水道光熱費	213,695	
地代家賃	5,447,286	
賃借料	834,368	
施設等評価費用		
減価償却費	1,773,282	
保険料	423,236	
諸会費・負担金	12,290	
租税公課	33,400	
広告宣伝費	1,087,076	
研修費	1,523,592	
支払手数料	2,329,792	
交際費	335,984	
寄付金		
雑費		
その他経費計	83,192,512	
事業費計	117,454,826	

岐阜麦酒醸造の
タッブルーム
「YORACA」オー
プンのクラウド
ファンディングで
得られた寄付金
収入が、約660万
円集まりました。
ご協力、ありが
とうございました。

前年比1,300万円収入
が増加し、経常収益は
2年連続して、1億円を
突破しました。

人件費を中心に昨
年度より、1700万
円増加しています。
長良川デパートリ
ニユール等で、
スタッフの人員が
増えてきています。

科目	金額	(単位:円)
2. 管理費		
(1) 人件費		
役員報酬		
給料手当	2,799,600	
法定福利費	503,316	
退職給付費用		
通勤費		
福利厚生費	741,010	
人件費計	4,043,926	
(2) その他経費		
印刷費		
会議費	125,129	
旅費交通費	17,920	
車両費		
通信運搬費	148,055	
消耗品・事務用品費	437,610	
印刷製本費	28	
修繕費	67,423	
水道光熱費	303,587	
地代家賃	1,483,650	
賃借料		
減価償却費		
保険料		
外注費		
研修費		
諸会費・負担金	152,250	
支払利息	504,438	
租税公課	2,359,075	
支払手数料	762,502	
交際費	92,695	
寄付金	282,580	
雑費	46,238	
その他経費計	6,783,180	
管理費計	10,827,106	
経常費用計	128,281,932	
当期経常増減額	5,556,251	
III 経常外収益		
1. 固定資産売却益		
2. 過年度損益修正益		
経常外収益計	0	
IV 経常外費用		
1. 固定資産除売却損		
2. 災害損失		
3. 過年度損益修正損		
経常外費用計	0	
V 経理区分振替額		
経理区分振替額		
税引前当期正味財産増減額	5,556,251	
法人税、住民税及び事業税	685,400	
当期正味財産増減額	4,870,851	
前期繰越正味財産額	9,698,246	
次期繰越正味財産額	14,569,097	

※今年度はその他の事業を実施していません

この活動計算書は会計帳簿の記載金額と一致し、
NPO法人ORGANの収支を正しく示していることを認めます。

担当理事 龍原潤一
監事 田代達生

数字でみるORGAN



設立
11年



有給スタッフ数
10人
(3月末時点)



正会員数
16人
(2022年3月末時点)

マンスリー
サポーター会員数
104人



寄付収入額
6,599,800円
※クラウドファンディングでの寄付を含む



長良川システムサポーター
育成数
76人
※2019年度から通算



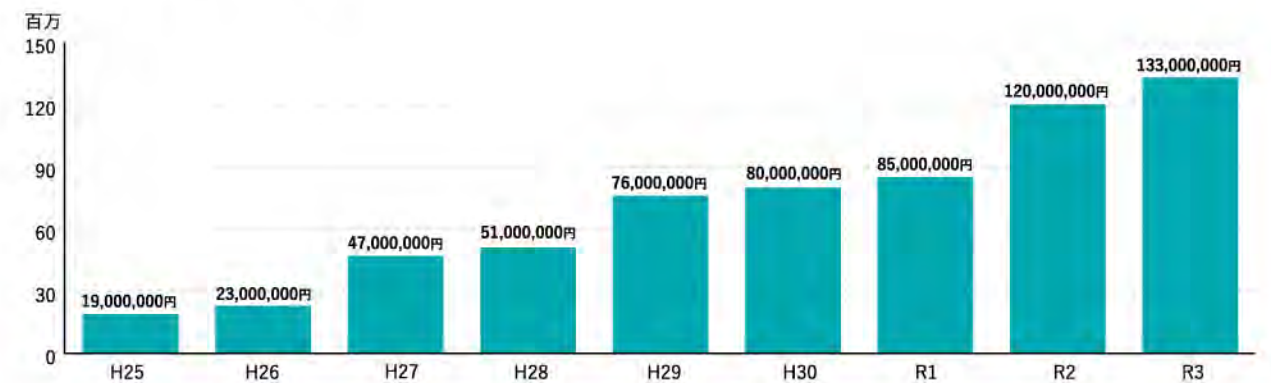
ツアー集客数
490人
※まいまい東海2021年
10月～2022年3月

移転したおんぱく
岐阜・岩手・福島・静岡・愛知・
三重・大阪・兵庫・島根・高知・福岡

開催支援した
体験プログラム
総数
5425
※通算



ORGAN事業収益推移



NPO法人ORGAN 2022年度事業方針

長良川流域の価値を伝える商品を作り、需要創出へむけて

未だ終息の目途がたないコロナ禍ではありますが、観光の客足も徐々に戻ってきているように感じます。2022年度には、コロナ後を見据え、高付加価値な観光商品の造成に力を入れてまいります。

2021年10月からスタートした「まいまい東海」は半年で62本のツアーを開催しました。秋から早春のツアーまでを実施しましたが、今年度も引き続き偏愛と土地の魅力溢れるツアーを企画・実施してまいります。

また、2022年度の取り組みとして、船遊びの商品化も目指してまいります。特集でも紹介した「長良川流域文化レッドデータブック」を作成する中で、船遊びは長良川の魅力を総合的に体感できるコンテンツであることを再確認しました。職人が作り上げた船に乗り込み、芸舞妓の舞を楽しみ

ながらお料理やお酒を頂く。そして長良川の恵み「鮎」の古来からの漁法である鵜飼を鑑賞。また長良川鵜飼観覧船操船技術は無形民俗文化財に指定されており、まさに技術と文化の粋(すい)が船遊びと言えます。

船遊びの認知度を高め、需要を創出するとともに、担い手の育成を行い、長良川の文化として継承していける仕組みを作りたいと思います。

長良川デパートも3月にリニューアルオープンし、本格的な営業としては2022年度が初年度となります。ハード面だけでなく、スタッフ育成や企画展にも注力し、旅行者の方ももちろんのこと、地元の方々にも足を運んでいただける店を目指します。

本年度も、どうぞよろしくお願いたします。



ORGANの活動に参加するには？

NPO法人ORGANでは、共感いただけるみなさんとの様々な関わり方をご用意しています。

**ORGAN長良川サポーター
(マンスリーサポート会員)**
ORGANの活動全体を応援する月額寄付会員。webサイトを通じてリアルタイムに活動報告をお送りします。

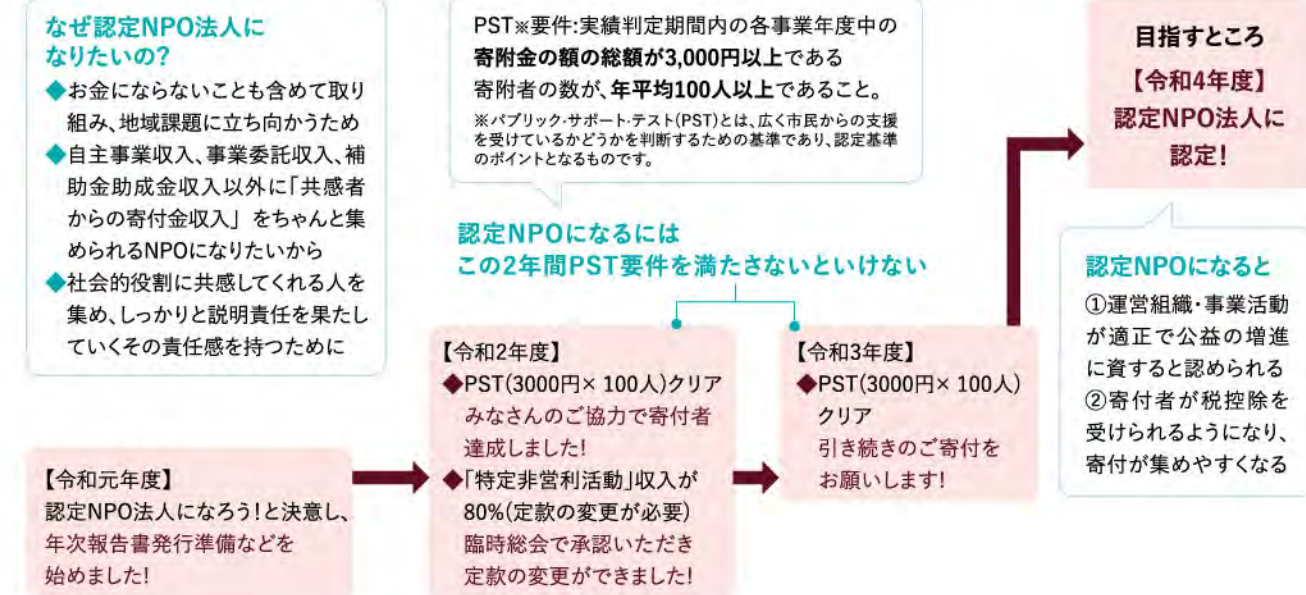
マンスリーサポート会員 入会ご希望の方
合同会社めぐるの運営する社会課題解決支援サイト「凸と凹」内のプロジェクトからマンスリーサポーター会員に登録できます。



プロボノ
ORGANが定義する特定のミッションに対して一緒に取り組む人を募集します。今後のワークショップを踏まえ募集、活動の開始をします。

ORGAN正会員
総会の議決権を有する会員です。会費は年10,000円です。今後、事業展開を行う中で定期ミーティングの参加等によりORGANに関わることが出来ます。長良川流域に現場を持ちORGANとビジョンを合わせて活動する方を想定しています。

NPO法人ORGANを認定NPO法人にするため、事務局では現在このようなプロセスを進めています



明治安田生命様より 10万円のご寄付を頂きました。

永島CEO(写真左)にてごと町家CASAにお越しいただき、私たちの活動について熱心に耳を傾けていただきましたこと、厚く御礼申し上げます。



NPO法人ORGANの活動をフォローしてください!

